

■第2回市民対話の報告

1. 本庁舎整備方針策定における市民対話の位置づけ

- 策定委員会と市民対話間の情報共有を密に行いながら、策定委員会が整備方針を検討するうえで参考となる、本庁舎への市民の感覚や考え(仮称:「市民の想い」)をまとめ、策定委員会に提示する
- 市民対話では、整備パターン案の直接的な評価、検討はせず、本庁舎整備方針を市民目線で考えるうえで欠かせない「大切な視点」(整備案の評価軸の一部を想定)をとりまとめる

2. 市民対話の進め方と各回のテーマ

- 第1回(実施済) 顔合わせと本庁舎整備方針に関する基礎情報の共有
- 第2回(9/3) 本庁舎のあり方を考えるうえでの「大切な視点」を定める
- 第3回(10/10) 拡張ワークショップ:市民の意見を広く集める
- 第4回(10/30) 「市民の想い」として意見をまとめ、策定委員会に共有する
- 第5回(12/4) 策定委員会のフィードバックも参考に「市民の想い」を改訂する

3. 第2回市民対話の概要

- 実施日:平成28年9月3日(土) 9:30 ~ 12:00
- 実施場所:鎌倉市役所 822 会議室
- 参加者:市民および市内の高校、大学の生徒・学生から参加を希望した全16名のうち、9名
- 式次第(下記参照)

時間	内容と担当
9:30-9:45	<u>オープニング</u> <ul style="list-style-type: none"> ● 市長挨拶 ● メンバー・ファシリテータ自己紹介、進め方共有
9:45-10:30	<u>グループ対話(1)</u> <ul style="list-style-type: none"> ● 機能・サービスに関する素材をもとに ● 防災・安全・安心に関する素材をもとに ● 場所性に関する素材をもとに
10:30-11:15	<u>グループ対話(2)</u> <ul style="list-style-type: none"> ● グループを変えて三つのテーマの議論を継続
11:15-12:00	<u>全体対話</u> <ul style="list-style-type: none"> ● 各グループの議論報告 ● 「市庁舎に求めること」
12:00-12:10	<u>クロージング</u> <ul style="list-style-type: none"> ● 次回以降の流れ、拡張WSの進め方

4. 第2回市民対話において各グループで語られた主な内容

Aグループ)場所性・景観・歴史・文化など地域の特性に関する素材のもとで

多くの市民にとって、本庁舎は身近な場所ではない

- ・ 「私には関係ない場所」、「年に1回行くか行かないか」
- ・ 「市長の部屋や議会は、どこにあってもよい」
- ・ 「職員の就業環境という意味では改善してほしい(本庁舎を見学しての感想)」

御成という場所には意味合いがある(鎌倉の象徴性)

- ・ 「長らく認知されている場所」、「鎌倉の中心である」
- ・ 「鎌倉地域に象徴的なものや、庁舎機能があるのはよい」

整備にあたっては、緑豊かな環境と景観を活かしてほしい(環境との調和)

- ・ 「現状の景観を維持してほしい」
- ・ 「ガラス張りや20-30階建てというのは、この場所にはそぐわない」
- ・ 「美術館のように、落ち着きや見慣れた感じがほしい」
- ・ 「市庁舎だけは、津波に対応できるボリュームがあっても良い」

整備するのであれば、新しい機能も考えてほしい(市民の集える、使える場)

- ・ 「市民が集える機能がほしい」
- ・ 「象徴的な場であってほしい」
- ・ 「スポーツ(ジム)や学習などの個人利用スペースがほしい」

Bグループ)機能・サービスに関する素材のもとで

現在の市役所には、あまり良い印象がない

- ・ 「暗い」、「私には関係のない場所」
- ・ 「本庁舎だけでなく、支所も古い」
- ・ 「昔は職員向け食堂を開放していて良かったが、それもなくなった」

これからの市役所には、違う意味合いや機能をもたせてほしい

- ・ 「困った時に、とりあえず訪れられる場所であってほしい」
- ・ 「モニュメント的な、象徴的な場所であってほしい」
- ・ 「逆に、『来なくていい場所』でいいのでは」
- ・ 「勉強できる場所や図書館の機能があってもよい」

サービス拠点は近くにあってほしい(集中と分散のバランス)

- ・ すべてが一箇所にあるべきではないのでは
- ・ 各地区にワンストップ・サービスがあると良い
- ・ 一方、コンビニ窓口化は情報セキュリティ面で不安も感じる

働く環境としては、大いに改善の余地がある

- ・ 「職場環境が悪すぎる(本庁舎を見学しての感想)」
- ・ 「電子化が遅れていることが、効率も下げているのではないか」

外国人観光客から見て、魅力ある場にならないか

- ・ 「鎌倉にはブランドはあるが、2回目の訪問レポートがない」
- ・ 「インバウンド向けの鎌倉の紹介機能があるとよい」
- ・ 「観光地の真ん中にあるなら、休憩、集う、座るといった機能がほしい」

Cグループ)防災・安全・安心に関する素材のもとの

災害時に必要な機能(1) 直後の「避難場所」

- ・ 「災害直後にとにかく安全に逃げられる場所でない」と
- ・ 「屋上を逃げ場として活用できるように」
- ・ 「津波に耐えるためには、高さ制限の特例もありではないか」
- ・ 「周りにいる観光客の逃げ場と対応も大切」

災害時に必要な機能(2) その後の「復興の司令塔」

- ・ 「情報インフラ・データが守られるように」
- ・ 「正しい情報発信がされること」
- ・ 「事が起きた後に司令するのは本庁舎」
- ・ 「場所が分散化していることでリスクも分散する」

災害への不安は本庁舎だけでは解決しない

- ・ 「地域の避難場所は知っている」、「ビルに人が殺到する危険がありそう」
- ・ 「ビルに逃げるのも不安、土砂崩れも不安」
- ・ 「液状化や倒木による交通断絶が不安」

通常時に求めることは分散化とワンストップ・サービス

- ・ 「データは共有しながら、サービス拠点は分散化がよい」、「車で行けるのが便利」
- ・ 「鎌倉は横須賀線だけでアクセスも良くない」、「各地のワンストップ機能は大切」
- ・ 「証明書発行のような機能ほど分散させてほしい」

未来の本庁舎に考えたい、求めたいことは多様

- ・ 「『市庁舎のない市役所』でもいいのではないか」
- ・ 「場所はどこでも良い。必要であれば行く。」
- ・ 「市民が集まりたくなる場。気軽さ・多様さがほしい」

5. 今後の市民対話で深めていく領域のイメージ

上記の意見を受けて、今後の市民対話(とくに次回の拡張ワークショップ)では、以下の領域での市民の感覚、考えを広く集め、集約させていく。

- 市民にとっての利便性(ワンストップの良さと集中と分散のバランス)とは
- 鎌倉の象徴性を表す場としての本庁舎とは
- 災害時の機能(直後の「避難場所」とその後の「司令塔」の機能)
- 長い時間軸(10年、20年、…50年…)で見た時に新たに求めること